

Title	食品製造関連多国籍企業にみる海外進出形態の規則性に関する考察
Sub Title	
Author	江田郁代(Eda, Ikuyo) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1992
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1992年度経営学 第901号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001992-0901">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001992-0901</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

江田 郁代  
(ネッスル株式会社)

主査 小林 規威

副査 青井 倫一

森川 英正

所属

小林 規威 研究室

## 食品製造関連多国籍企業にみる海外進出形態の規則性に関する考察

本論文の目的は、日米欧を代表する食品製造関連多国籍企業6社の国際化の道程を明らかにし、海外進出形態における規則性の有無を明確にすることである。

食品業界は、国家、民族、地域別食習慣に対応しなければならないので、国際化の難しい業界であるといわれている。このような食品業界にあっても、今日、多数の国に進出し、経営の国際化で成功を収めている企業も存在する。そして、これらの企業の国際化の歴史には、いくつかの類似点があることを発見した。すなわち、これらの企業の海外進出は、「製品輸出」「販売提携」「ライセンス供与」「自社販売網の建設」「現地生産の実施」という、一種の展開のパターンをたどっているという点である。そして、この展開のパターンは、個々の企業ごとに展開の順序が微妙に違っていることもわかってきた。この微妙な相違が何によって生じるかを理解するために、(1)本社所在国の競争条件、(2)保有経営資源の大小、(3)国際化を展開する地域セクターの特色と展開の順序、(4)経営管理方針の違い、(5)経営管理方針と地域セクター環境とのすり合わせと結びつき、等に注目し、6社の海外進出形態の分析を試みた。

本論文の研究の結果は、将来に向かいグローバル化を目指す日本の食品製造会社にとって、その発展の方向を見定め戦略を選択する上で、役立つものと考えられる。